

日時：令和4年9月17日（土）20時～21時半

参加者：菊池、佐藤、下山、片山、大西、月本、瀬尾、澤田、原田、浅野

## 1 第49回定期演奏会の前半の選曲について（主な発言の要旨）

- ・前半は明るそうな曲（悲劇的など暗いのはNG）が良い。
- ・松井先生がドイツものが好きそうなこと、また、ブラームスに合うドイツ作曲家として、Rシュトラウスとワーグナーが適当ではないか。
- ・リヒャルトではブラ3と同じへ長調のティルオイレンシュピーゲルが最もよい。
- ・ワーグナーではタンホイザーの弦はプロでも難しくアマチュアでは不可能なため、マイスタージンガーが適当ではないか。
- ・ティルは、ホルンパートはブラ3が控えていることから困難であること、また、チェロも大変だということ、木管楽器からも編成が大きいためエキストラが必要となることから難しいのではなどと、やっではみたいが現実的に困難という意見が多数を占め、今回は見送ることとした。
- ・財政的に大丈夫であればコンチェルトという意見もあったが、今回は対象外となった。
- ・序曲として、マイスタージンガー、リムスキーコルサコフ「皇帝の花嫁」、ローエングリンから第3幕への序章、エルザの行進などが出されたが、まずは前半のメインを決めることとした。
- ・音楽祭でする曲を被らせても良いのではという意見があり、レ・プレも候補としたが、Rシュトラウスとは比べられないという意見もあった。

### <結論>

- ・前半の核となる曲は、やはりRシュトラウスが良いという意見があり、そうであれば編成的にドン・ファンが適当ではないかととなり、各パートに持ち帰って意見を聞いたうえで再協議することとした。

## 2 音楽祭の選曲等について

修正案について、前半については特に意見は無く、提案のとおり役員会に諮ることで承認された。

後半については、ジブリの「ナウシカ・レクイエム、アシタカセツ記、君をのせて」について、アレンジの良いものが出ていないか確認し、良いものがあれば差し替えができないか、また、オリジナルのレンタル譜は早目に予約するよう意見が出され、原案どおり承認された。

### 倉敷音楽祭プログラム（変更案）

#### （前半）

指揮：菊池東

#### ○ドボルザーク／「謝肉祭」（10分）

Fl: 2, Picc: 1, Ob: 2, Ehr: 1, Cl: 2, Fg: 2, Hr: 4, Tp: 2, Tb: 3, Tub: 1, Timp: 1, Cym: 1, Trg: 1, Hp: 1, Tamb

#### ○サン＝サーンス／交響詩「死の舞踏」（7分）

Fl: 2, Picc: 1, Ob: 2, Cl: 2, Fg: 2, Hr: 4, Tp: 2, Tb: 3, Tub: 1, Timp: 1, Cym: 1, Trg: 1, BD: 1, Hp: 1, 木琴

#### ○リスト／レ・プレリュード(15分)

Fl: 3, Picc: (1), Ob: 2, Cl: 2, Fg: 2, Hr: 4, Tp: 2, Tb: 3, Tub: 1, Timp: 1, Cym: 1, BD: 1, SD: 1, Hp: 1

#### （後半）

指揮：浦優介

ピアノ：渡部乃亜

アコーディオン：檜山学

マンドリン：伊丹典子

ナビゲーター：菊池東

- 「ハウルの動く城」よりオーケストラの為のシンフォニック・ヴァリエーション
- 「もののけ姫」より“アシタカセツ記”
- 「風の谷のナウシカ」より“ナウシカ・レクイエム”
- 「千と千尋の神隠し」より“あの夏へ”
- 交響組曲「魔女の宅急便」
- アンコール／「天空の城ラピュタ」より“君をのせて”

### <浦優介 Ura Yusuke プロフィール>

関西学院大学商学部を卒業後、くらしき作陽大学音楽学部にて指揮を学び、ウクライナへ留学。ウクライナ国立コトリャレフスキー記念ハルキウ芸術大学指揮科に在学中だが、ウクライナ侵攻により帰国を余儀なくされる。

指揮を中井章徳、高谷光信、N.スーカッチ（チェルニーヒウフィル音楽監督）、Y.ジャチェンコ、ピアノを重川逸呼、金子葉子、I.デニセンコ、M.リンニク、M.ペブズ、ホルンを中西順、A.オブチャールの各氏に師事する。

2013～2016年「おりなす八女音楽塾」指揮マスタークラスを修了し、大山平一郎氏の指導を受ける。

2016～2019年 ウクライナ国際指揮マスタークラスを修了する。

修了演奏会に選抜されチェルニーヒウフィルハーモニー交響楽団と共演し、スラブ音楽奨励賞（2016年）、優秀指揮者賞（2019年）を受賞する。

2018～2019年 名古屋芸術大学主催の高谷光信指揮マスタークラスを受講する。

2019年 ルーマニア国立ブカレスト国際音楽大学主催の国際指揮マスタークラスを修了し、Y.パヌラ氏、J.ワン氏の指導を受ける。

2021年 公益財団法人山田貞夫音楽財団指揮者オーディションにて、山田貞夫音楽賞及び特選を受賞する。受賞者演奏会にてセントラル愛知交響楽団を指揮する。

これまでにセントラル愛知交響楽団、瀬戸フィルハーモニー交響楽団をはじめ多くの演奏団体を指揮する。また、市民オーケストラ・吹奏楽などで客演を重ねている。

現在、一般社団法人日本ウクライナ音楽協会理事。

### <渡部乃亜 プロフィール>

新潟市出身。くらしき作陽大学音楽学部音楽学科モスクワ音楽院特別演奏コースを首席で卒業。チャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院研究科修了。

ピアノを河本美和、石井朋子、菅又淑子、Y.スレサレフ、A.カマロフ、E.V.リヒテルの各氏に、伴奏法をA.アガジャーノフ氏に、室内楽を故V.スカナビ氏に、音楽理論を小西奈雅子氏に師事。

第3回V.K.メルジャーノフ記念国際コンクール(ブルガリア)においてプロコフィエフの最良演奏に対して特別賞受賞、第1回国際コンクールフェスティバル《音楽の色彩》(モスクワ)においてピアノ部門第1位受賞。

新潟青陵大学短期大学部非常勤講師。

### <伊丹典子プロフィール>

3歳よりピアノ、15歳よりマンドリンを始める。マンドリンを桑井謙三、指揮法を新田孝に師事。1994年よりソリストとしてリサイタル・CDリリース等国内外で幅広く活動。多数のコンサート・音楽祭・大学授業演奏会・イベント等に招聘され特別出演し各方面で絶賛を博している。種々のクラシック楽器や声楽、邦楽と共演しマンドリンのクラシック楽器としての位置付けの確立・地位向上を図り、マンドリン音楽の普及発展をめざして、一般聴衆に向けた演奏を中心に演奏活動を行っている。ミヒャエル・トレスター、荘村清志、福田進一、フローリアン・マイヤロット、プーリー・アナビアン等の国際的なアーティストと共演、中林淳真と全国コンサートツアーなど活動が目覚ましい。2013年9月、2015年8月にはロシアでの国際フェスティバルでモスクワ音楽院にて招聘演奏、好評を博した。日本ユニセフ協会後援チャリティコンサートなどを主催し、演奏活動を通しての社会福祉貢献にも意欲的に力を注いでいる。テレビ、ラジオにも多数出演。新聞雑誌など全国のマスコミにも多数紹介されている。各地でマンドリンスクールを開催し、後進の指導育成にあたっている。現在はオンラインレッスンも取り入れ、広域にわたって指導を行っている。

文化庁「子どものための優れた舞台芸術体験事業」<派遣事業・音楽部門>協力芸術家。日本マンドリン連盟会員。「伊丹典子マンドリンアカデミア」主宰。

公式サイト「伊丹典子のマンドリンの世界」<http://noriko-mnd.com/>

### <檜山学 プロフィール>

幼い頃から父親の影響によりアコーディオンを始める。

高校卒業後、イタリアとフランスにて約8年間の留学生活を送る。

G.Fassetta, F.Deschamps, B.Perreyに師事。

2003年に帰国し、東京を拠点に様々なライブパフォーマンスを展開する他、レコーディングや他ジャンルの様々なアーティストやダンサーとのコラボレーション、舞台音楽など精力的に活動している。また、イタリア、チリ、ロシア、スイス、韓国、香港など国外での演奏活動も行っている。現在最もアグレッシブなプレイヤーの一人として国内外から熱い注目を浴びている。

2016年以降、世界最高峰である、CMA世界アコーディオン・コンクールにおいて日本代表の審査員を努めている。また後進の育成にも力を注いでいる。